

高知県における 特別支援学校の 現状について

高教組障害児学校部書記長
青木志保

県内には現在、13の特別支援学校(分校6校舎)があります。近年、特別支援学校では児童生徒数は減少傾向にあります。知的障害や肢体不自由の学校では適正規模以上の児童生徒が在籍し、特別教室が計画的に使えない、安全面での確保ができないなどの問題があります。また、障害の多様化や発達障害の児童生徒の増加に伴い、安全確保の点からも個別の対応が求められることも多く、ゆとりのない状況が続いています。

臨時教員が多い状態も変わりありません。今年度当初は、必要な数の臨時教員の希望者がいないため、小学校を中心に教員が揃わないまま新学期がスタートしたという。今までにない状況が起こりました。年度途中でも臨時教員の希望者が着任したため、退職された先生が着任しているケースもあります。臨時教員不足は「教育」として大きな問題

題となつていきます。また、日赤の移転に伴い、高知江の口養護学校など病弱養護学校の再編振興に関する検討委員会が10月までに6回計画されています。盲学校・ろう学校も含めた第二次の再編振興に関して、障害児学校部としても現場の声を届ける

「繰り返しを絶対！」

Ⅱ 世代・組織を超えて連携へⅡ

別役 美佐

♪赤いリンゴに唇よせて黙ってみている青い空。戦後の混乱期の人々に生きる力を漲らせたと言われるメロディーが流れ、映し出された映像を目にすれば、教秒で参加者を70年前

でもがないがしるにされかねない情勢の中での終戦記念日です。「聞き取り調査を行いました。被爆体験者は、当時5、6歳でした。僕たちが、戦争や被爆体験を聞くことのできる最後の世代だと思ふ。記録に残し、この体験を継承していきたい」と、嘉藤敬佑さん(ピースパイオニアーズ)は力強く訴えました。また、戦争体験者の藤本真事さん(南国談話会会長)は、小学校時代の日の丸弁当の苦い思い出と



「聞き取り調査を行いました。被爆体験者は、当時5、6歳でした。僕たちが、戦争や被爆体験を聞くことのできる最後の世代だと思ふ。記録に残し、この体験を継承していきたい」と、嘉藤敬佑さん(ピースパイオニアーズ)は力強く訴えました。また、戦争体験者の藤本真事さん(南国談話会会長)は、小学校時代の日の丸弁当の苦い思い出と

このニュースの発行時は、安保関連法案の審議、真っ最中です。「戦争法案反対」「憲法を守れ」の世論喚起が大きな力ギとなっています。「60日ルール」でいくと、9月14日(延長国会の会期末)、9月27日(再延長はできない)の出番です。今こそ高退協! 「教育」の世界が二度と「恐ろしい」とならないように。

邦楽を楽む

高橋哲也

独奏楽器だった尺八

筆者が尺八を始めたのは清水高校勤務のときの約30年前。尺八は真竹でできた管楽器で全面に4つ背面に1つの孔がある邦楽器です。管の両端が開いているため音が出しにくく正確な音程を出すことはさらに難しいことから「首振り3年コロ8年」と言われます。どちらも尺八独特の奏法で首振りやビブラート、コロは尺八独特のトリルのことです。現在では尺八は箏(こと)や三味線と一緒に演奏されますが尺八が合奏に用いられたのは江戸時代末から明治期以降で廃仏毀釈によって職を失った虚無僧の副業として始まりました。それ以前は仏教音楽を奏でる独奏楽器で法器とも呼ばれています。

外国の伝統楽器と交流

今年3月末の定年退職後は箏などとの合奏の機会が増え5月29・3日には国立釜山国楽院(韓国釜山市)大劇場での2015年韓日伝統芸術交流音楽会(日韓外交正常化50周年記念)に参加し日韓民間交流を行いました。韓国の伝統音楽は国楽(クガク)と呼ばれます。韓国内に4つの国楽院があり国立釜山国楽院はその一つで大学院、専用の劇場そして附属合奏団を持っています。団員は国家

公務員で自国の伝統音楽が手厚く保護されていると感じました。600名を超える韓国の方々に日本の古典や邦楽の現代曲そして韓国の伝統楽器との合奏でアリアン変奏曲を聞いていただきました。

トッププロの演奏が夜復で聴ける

尺八といえばノイズな音色と思われがちですが実はフルート様の音色から風の音や波の音まで奏でられる楽器です。尺八奏者と高名なフルート奏者の対談でフルート奏者は演奏する気満々で楽器を出していました。尺八奏者が尺八の音色を紹介すると、フルート奏者は、こそっと楽器をしまっていた、というエピソードもあるくらい多彩な音色の出る楽器です。その「尺八奏者」こそ今回のゲストの坂田梁山です。

9月6日(日)13時半から香南市の夜須マリンホールで開催される香南市音楽祭には坂田梁山、琵琶の坂田美子、箏の稲葉美和がゲスト出演し、筆者らと一緒に演奏する曲も含め6曲が披露されます。このグループは小椋佳やサラエボ出身の歌手のヤドランカとも共演し、その様子をテレビで見た方も少なくないかと思ひます。ぜひ、ご自身で「多彩な音色」をお確かめください。料金は500円。チケットは高教組の事務所にもあります。

趣味悠々



2015年韓日伝統芸術交流音楽会

(日韓外交正常化50周年記念)演奏会
2015年韓日伝統芸術交流音楽会(日韓外交正常化50周年記念)演奏会。箏(こと)の列、左端、箏演奏家で筆者の娘(高橋雅芳)、この演奏会で第一等トップを務める。左から3番目が妻、尺八の列、右から2番目が筆者。韓国側奏者は皆プロ、日本側奏者は娘のほか数人がプロ、その他はアマチュアで構成されている。5月3日釜山国楽院大ホールで(写真 梶田誠)